

*「ポレーシュ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう

— チェルノブイリに思いをよせて —

ポレーシュ

東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや

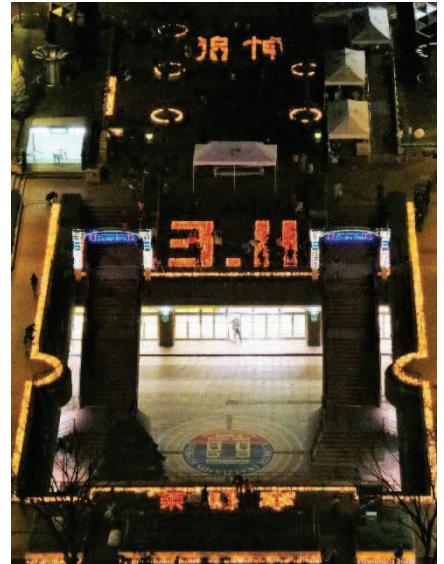
—久屋大通公園・もちの木広場にて—

3月11日 14時46分、遙か東北へ向き黙祷。

「私たちは、東日本大震災の犠牲になったおひとりおひとりを、心から追悼いたします。静かに目を閉じて、声なき声に耳を傾けます。私たちは、あなたたちを決して忘れません。私たちは、これからも被災地と被災者に心を寄せてていきます。東日本大震災を教訓に災害に備えます。そして、来年の3月11日に再び集うことを、ここに宣言いたします。」

追悼式典実行委員長の、東海岩手県人会会長石井さんが、宣言文を読み上げた。追悼式典会場は、午前中の準備作業によって見事に整えられ、式典は14時半に開会した。今年は仙台出身のプロのアナウンサーが式典の進行を務め、4年前に追悼集会を呼び掛けた「みちのく屋」の若林さんが、開会のあいさつを行い、献花が開始された。献花をする人々の静かな悲しみと哀悼の思いが、白いカーネーションに託される。…夕闇が迫った会場には、静かにキャンドルの灯が揺らいでいた。（山盛）

3月11日、4周年を迎えるこの日、栄・もちの木広場にて「東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや」が開かれました。この実行委員会も今年で2回目の追悼式開催となりました。昨年は約1,500名が参加され、キャンドルと献花、黙祷をささげるシンプルな式典が支持されました。前日は名古屋でも雪が降り大荒れの天気でしたが、当日は雪の影響はないものの寒空の下、朝から多くのボランティアさんが準備をしてくださり、2万本ものキャンドルを並べ、火を灯し揺らぐ炎を見ると、この一つ一つの火が犠牲者のお一人お一人であり、なんともいえない気持ちになりました。（兼松）



<追悼 3.11 東日本（テレビ塔より）>

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞5階B

NPO法人 チェルノブイリ救援・中部

銀 行 名：三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部（店番号150）

□ 座 番 号：普通 6949211

□ 座 名 義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵 便 振 替：00880-7-108610

T E L / F a x : 052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホーメページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

移転しました！
(P9 参照)

ウクライナから届いたビデオメッセージ～東日本大震災4周年によせて～（兼松）

ジトーミルの子ども達から、4周年によせてビデオメッセージが届きました。送ってくれたのは、ジトーミル第25番学校の文学サークル「若い希望」の生徒のみなさんと、顧問の先生です。また、第7番学校に通う12歳のユーリヤちゃんが、日本語でメッセージや詩を朗読してくれました。このビデオは、3月11日の集会で流したかったのですが、ビデオが届いたのが3月9日で、そこから翻訳もしなければならず、残念ながら当日に流すことはできませんでした。字幕をつけるなどの編集作業をすすめ、機会をつくってお披露目したいと思います。その前に、どんなメッセージをよせてくれたのか、一部ご紹介したいと思います。

＜第7番学校のユーリヤちゃんより＞【詩の朗読(日本語で暗唱)】※下線部分は日本語

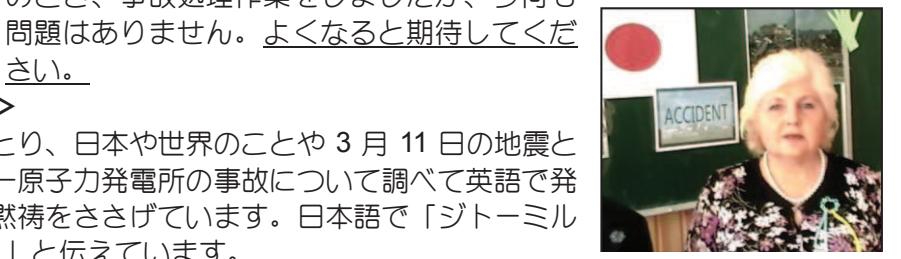


ここにちは！ 私はユーリヤです。12歳です。第7番学校で勉強しています。私は日本語が大好きです。皆さんをサポートしたいです。そちらではフクシマ、こちらでは Chernobyl がありました。でも絶望することはありません。私のおじいさんは Chernobyl 事故のとき、事故処理作業をしましたが、今何も問題はありません。よくなると期待してください。

＜第25番学校より＞

生徒たちが一人ひとり、日本や世界のことや3月11日の地震と津波のこと、福島第一原子力発電所の事故について調べて英語で発表し、最後に全員で黙祷をささげています。日本語で「ジトーミルと福島はひとつです。」と伝えています。

【詩の朗読（ウクライナ語）】



＜サークルの顧問マリヤ先生＞

- 友だちになりましょう -

（ Chernobyl 救援・中部 池田光司 作）

友だちになりましょう

さびしいときや かなしいときは
ともに泣いて

うれしいときや たのしいときは
ともに笑って

くるしいときや つらいときは
ともに支えあって

友だちになりましょう

おたがいのちがいを認めあって
おたがいのよいところをほめあって
おたがいのたりないところを

おぎないあって

友だちになりましょう

けんかをして

仲なおりをして

普段着のまま

友だちになりましょう

- 警鐘が世界に災厄を知らせた -

（サークルの顧問マリヤ先生）

20年以上の昔、皆さんはこちらに来て

兄弟のように、分かち合えるものすべてを
分かち合ってくれた

畑に種を播き、幼稚園を復興させ

新しい機器を病院に運んでくれた

こんな配慮に私たちは限りなく

感謝しています

兄弟のような皆さんのご支援を

いつも感じています

思いがけず皆さんも

体験することになりました

地震、津波、水不足を

原子炉も耐え切れず、環境中に吐き出された

あのストロンチウムやセシウムが

日本の大地に

心は立ち騒ぎ、願いが生じた

皆さんにこの悲しみの時、

肩を貸してさしあげたいと



**同胞である日本国民の方々と
「チェルノブイリ救援・中部」のすべてのメンバーの方々に
東日本大震災の悲劇の祈念日にあたって**

慈善基金「チェルノブイリの消防士たち」代表 B.チュマク

3月11日、何千人もの日本の方々の失われた命と、滅ぼされた将来に思いを馳せ、私たちの心に痛みと悲しみが刻まれてから、また一年が経ちました。

まさにこの日、皆さんの国が巨大な悲劇の闇に包まれたのです。

私たち、チェルノブイリ原発事故の事故処理作業者たちは、すべてのウクライナ国民と同じく、日本で起こった悲劇的な出来事を深く理解するとともに、日本国民の方々の直面する課題、原発事故の影響の克服の困難さを意識しています。核の惨事を体験してきた私たちは、皆さんの不幸を我が事のように受け止めています。恐ろしい災厄のもたらした損失に対し、悲しむとともに、心からの同情の思いを表明させていただきます。

また、核の猛威が荒れ狂う中に飛び込んでいったすべての人々、またこの災厄に無関心ではいられず、今も事故の影響をなくすために全力を上げているすべての人々の前に頭を垂れます。

私たち、ポレーシュの事故処理作業者である消防士たちは、すべてのウクライナ国民同様、この福島の悲劇の祈念日に日本国民の方々と心と思いをともにし、この日、私たちはこの地球規模の惨事で亡くなられた方々の冥福を祈り、ろうそくに火をともします。

～ご支援ありがとうございました！！～

**2月、ウクライナの被災地の子ども達に
粉ミルクが贈られました。**

粉ミルクの贈り先、ナロジチの幼稚園から写真が届きました。この粉ミルクは、チェルノブイリ原発事故のあとに生まれた子ども達が大人になって出産をし、その子ども達に贈られるのです。ウクライナでは、食品測定の制度をいくら整えても、家庭菜園で採れたものを測定せず食べてしまう人たちも多く、内部被曝を防ぐことは困難です。その結果、病気の子ども達が数多くいるのです。

私たちは、ウクライナにミルクを贈り続けます。それは、フクシマの子ども達が生涯安心して過ごせる環境を守る活動にも、つながっていくと信じています。

二度とチェルノブイリの悲しみを繰り返してはいけないのであります。

(市原 佳代)



南相馬便り

(神谷 俊尚)

☆東日本大震災・福島第1原発事故から4年が経過しました。未だ14万人弱の方々が避難生活を強いられています(福島県は、県外避難者47,219人、仮設入居者23,794人／自主避難者含まず)。復旧・復興が進んでいるかのように報道はなされていますが、「避難指示解除準備区域」の小高区の場合、海岸沿いの津波被害住宅はほぼ撤去されたものの、地震による解体希望住宅の65%以上が順番待ち状態。「居住制限区域」の浪江町は、海岸沿いでようやく震災津波によるがれき撤去が本格化しつつありますが、駅や役場周辺の住宅密集地の地震被害は放置状態のままでです。多くの除染作業員が朝晩行きかい、仮置場が多く目立ち、また、除染物を入れたフレコンパックの山が多くみられるようになった南相馬市内ですが、現実は除染が進んでいません。数字で見ると(小高区含まず、1月末県発表)、住宅除染の進歩率は21.1%、道路除染は32.9%、水田除染は2.8%、畠地は0.8%、牧草地は1.9%に過ぎません。小高区と浪江町は、環境省が除染作業の担当ですが、数値の発表はなく、住宅除染はほとんど進んでいないといった状況です。

また、小中学生の在籍率の推移をみると、小学児童は震災前に比べ15%減り、市外移転の傾向がはっきりとしています。来年4月より、「小高区解除」が叫ばれていますが、現状75%の児童家族の避難が続いている、実際どの程度帰還が進むのか、予測がつきません。

平成27年度から、南相馬市は米の作付けが全面解禁となり、農家への説明会が開かれています。昨年の試験田100haから、今年度は650ha程の作付けとなりそうです。しかし、昨年度は米の概算価格が1俵6,700円(最低)となり、今年度はほとんどの農家が「飼料米の作付け」へと移行しそうな雰囲気です(飼料米の買上価格は低いけれども、助成金を含めて収入が見込めるため)。

☆「とどけ鳥」は、まもなく3周年を迎えます。今後へ向けて、3月上旬にフリートーキング合宿と二本松市「放射線被ばく測定センター」の視察、郡山市でGPS運動型空間線量率自動記録システム(Hot Spot Finder)の研修会を開催しました。(P5参照)

☆(社)南相馬農地再生協議会の「油菜ちゃん」は、270g換算で約4,800本(3/20現在)製品化できました。2月中旬には「油菜ちゃん」を使用したマヨネーズを生産(約300個)し販売を行いました。思わぬ反響ですべて完売。今後定番品として製造工場と協議し4月下旬から再販売に踏み切る事としました。是非ご賞味ください。

再生協議会として「菜種乾燥設備と播種の機械化」を望んでいました。幸い「タケダ・いのちとくらし再生プログラム」の助成と、市の新年度予算による助成決定で、ほぼ目途が立ってきました。まだ、「収納倉庫」の確保などの問題も抱えていますが、1歩1歩前進できる体制が整いつつあります。

5月17日(日)「南相馬菜の花見会」を(社)南相馬農地再生協議会主催で開催します。

詳細が決まり次第、チエル救ホームページに掲載しますので、是非ご参加を！！

放射能測定センター・南相馬（とどけ鳥）合宿に参加して

(戸村 京子)

放射能測定センター・南相馬（とどけ鳥）の合宿が、去る3月8~9日、名残雪がまだちらほらある福島県二本松市あだたら高原・岳温泉で行われ、とどけ鳥から6名、チェル救から3名が参加しました。

【一日目】フリートーク

「放射能測定センター・南相馬の今後の運営体制」について、それぞれのこれまでの関わりや思い、これから活動について語り合いました。

- ・測定検体数が減っているが、測定センターが続いている限り、短くとも10年は関わりたい。女性がもう一人いるとよい。
- ・初めのころは、多くの人でワイワイとやっていたが、最近は尻すぼみで2人休めばアウト。どうなるか？ 我々年長の者より、もっと若い人が入ればよいと思う。
- ・若い人に拘らず、意味を感じてやれる人ならよい。測定センターのニーズはなくならない。何かあったら、「とどけ鳥」へと…。
- ・「とどけ鳥」は数字を流すだけでなく、交流もあることが特徴で、社会的意味は大きい。独自で助成金も申請すればよい。
- ・測定センターと農地再生協議会は、並行して協力関係でやれる。
- ・農地再生協議会は、放射能測定センターの活動の中のキーであってもよいのでは？ 農地再生協議会への情報提供は重要だし、大きな意味での目的は同じだと思う。

＜今後＆長期的視野で何をするか＞

- ・シンチレーション式測定器（カタログハウスから借用）による、帰還希望者の自宅等の測定をやる。自宅室内4~5ポイント、庭等を測り、なぜ高いかがわかれればよい。データを持っておくことは必要。データの整理から「なぜ」が解明できる。

【二日目】見学会

＜二本松市放射線被ばく測定センター／獨協医科大学国際疫学研究室福島分室＞

獨協医科大学の木村真三氏の案内で、放射線被ばく測定センターを見学させていただきました。ウクライナとの共同開発の放射能測定器では、小学生や高齢者まで測定の仕方や測定値について学び、市民科学者として日常的に測定を行っているそうです。またセンター内に設置されているゲルマニウム半導体測定器について、木村氏他、長崎大学の高辻俊宏氏からも説明していただきました。



＜「日本遮蔽技研」（郡山市）＞

GPS連動型空間線量率自動記録システムを、ポニー工業株式会社の中井氏の説明で実際に測定しながら見学しました。これは、グーグルマップを使用して、徒歩で持ち歩いたり車に搭載して移動しながら放射能測定ができるものです。

＜合宿に参加しての感想＞

今回のとどけ鳥の合宿に参加して、やはり顔を合わせて本音を出し合いながら話し合うことの大切さを再確認しました。南相馬の測定センターでの日々の測定作業環境から離れて、日常気になつてることを他のメンバーと共有したり、測定センターの将来の望ましい在り方や南相馬の地域の人々の自立再生など、いろいろな話が出ました。ウクライナの被災者支援と同じように、顔の見える人間関係が私たちの活動のもとであり、支援というより自分たちの生き方の問題であると思いました。

特集！「5年目のフクシマ」に伝えたい！ 『10年目のチェルノブイリ』が再刊されました！

●キクの花とシャンパンを買って待っていました

カテリーナ・セルゲーヴナ・パシンスカヤ
ジトーミル州・コーラステン市キーロフ通り 8

こんにちは、親愛なる心温かい皆さまへ！

あなた方が私の不幸に応えて、補聴器を持ってきてくださったご支援に対して、心よりお礼申し上げます。しかしながら、私はあなた方にはとても恐縮しております。あなた方とお会いできるのを待っていたのです。シャンパンと菊の花を買いましたが、私は12時に、あなた方がコーラステンにいらっしゃると聞かされていたのですが、あなた方は10時30分にいらっしゃったのですね。

私はナロジチ病院に何回か電話を掛けて、道の途中で18時まで待っておりましたが、お会いできませんでした。あなたのために用意したシャンパンは、次回いらっしゃる時のために置いておきますので、お電話いただけたら嬉しいです。補聴器をありがとうございました。夫にとっては、前よりも良いのですが、あまり便利だというわけではありません。これがもし耳の後ろか耳の中に固定できればと思います。

クリスマスおめでとうございます。どうぞご健康でお幸せでありますように。私は肝炎のため、長い間ジトーミル病院に入院していましたので、久しくお手紙を書けず、失礼をいたしました。ごめんなさい。敬意を込めて

チェルノブイリからの手紙
—10年目のチェルノブイリ—



NPO法人 チェルノブイリ救援・中部



●子どもに喜びや幸せな子ども時代を与えてやれないことが悔しくて

ズペーレフ・セルゲイ・アレクサンドロヴィッチ
ジトーミル州・コーラステン市キーロバ通り 48A 号棟 56号室

出づる国の皆さん、こんにちは！

コーラステンの被害者より、このお手紙を書いています。日本からのお手紙を受け取らなくなつてから、もう3年以上過ぎ去りました。あなた方のお手紙を受け取り、私たちはとても嬉しく思います。やっかいをおかけし、精神的な援助をどうもありがとうございます。

チェルノブイリの大変な事故の日から、ほぼ10年が過ぎ去りました。年ごとに、暮らしは全てがより困難に、より厳しくなっています。チェルノブイリの法律は実現せず、ガンの病気が絶えず増加し、甲状腺や子どもの死亡率が増大しています。10年間、私たちの家族は一度も保養に行っていません。

私たちの子どもは皆、以前より頻繁に病気になっています。ウクライナでの生活のレベルは、絶えず低下しています。私たちは長いこと自分の子ども達に、おもちゃや甘いお菓子、汚染されていない栄養食品を貢うことができません。私たちは、とても子ども達の将来を案じています。私達の上の息子は9才、真中の息子は6才、一番下の娘は4才です。

私は自分の国、私たちの政府のことをとても恥ずかしく思います。私は、自分の子どもに、喜びや幸せな子ども時代を与えてやれないことを悔しく思っています。

●私たちの悲しみを忘れないでいてください、ありがとうございます

尊敬する皆様方、こんにちは。

手紙を書いているのは、キプチュク・リュドミーラ・ウラジーミロブナという母親です。皆様からお手紙を戴きましたが、私たちの悲しみを忘れないでいてください、どうもありがとうございます。さらに、私たちの健康のことをお尋ねですね。我が家の中も達はもう大きくなりました。上の娘はいつも病気をしていますし、息子のほうはもともと病弱です。彼は13歳ですが、いつも腫瘍ができ、去年は40日間入院しました。

私の夫も病気です。夫は頭に腫瘍ができ、病院に行ったところ、腫瘍病院に回され、手術をしなくてはなりません。私自身はもうどこにもかかっておりません、なぜなら無駄ですからどこにも行かないのです。今のところ働いているのは私一人で、それもひと月に1週間です。別の場所に新しい住居を本当に貰いました。

日本のおかあさんとの文通については、誰からもお手紙をもらえないままです。皆さんに無理を言ってすみません。いろいろとありがとうございます。さようなら



●日本のお母さま方、お子さんの健康を煩うことなく、ぐっすりお休みになれますように

こんにちは！

お手紙をいただき、大変ありがとうございます。日本の家族と文通して5年になります。皆様のお手紙に心を打たれまして、私達は返事を書くことにしました。現在、ウクライナの生活は困難なものです。経済は横ばい状態で、無秩序、物価高、生活条件は悪くなっています。ウクライナ政府はどうにかしようとやってはいますが無駄に終わっています。私の家族はイミリチノ町の国営アパートに住んでいます。ジトーミル市のアパートをもらおうと、もう3年も順番を待っています。家族全員が病気なので、汚染地帯から出て行きたいのです。今のところ、順番はちっとも進まず、無駄に終わっています。そもそもアパートをもらえるかどうかわからいません。

私と夫は働いていますがお給料はわずかで、家族を食べさせるだけで精一杯です。娘二人は、この町で生まれ大きくなりました。長女のリュボフィは20才で国際経済関係大学の4年生です。現在では子どもに教育を受けさせることも困難ですが、専門を生かした仕事や住まいを見つけるのはもっと大変です。彼女は今年大学を卒業するのです。下の娘は14才、9年生です。今年は私たちにとってとりわけ辛い年でした。7キロ離れた村に住み、精神的にも、経済的にもいろいろと助けてくれた母が亡くなりました。家財道具は置く場所がないので持っています。

お手紙をください、優しいことばを掛けてくださいってありがとうございます。日本の家族との文通に満足しています。あなたの国の成功、喜ばしく思っています。あなたの国の皆様がどうぞ健康でいられますように。お母さま方、お子さんの健康を思い煩うことなく、ぐっすりとお休みになれますように。

Chernobyl の事故が世界で二度と繰り返されませんように。皆様、お幸せに、うれしいことがたくさんありますように。さようなら

全56通の手紙が掲載されています。

入手を希望される方は、「Chernobyl 救事務所」または「とどけ鳥事務所」までどうぞ！（美）

----- 国中に出回る汚染建材 -----

国（林野庁）は最近、福島復興を目指すとして、県内の森林の木材を建材に加工し出荷することを決めた。放射性セシウムの含有量は、最大 2200Bq/Kg まで OK だという。この濃度の木材で家を建てれば、その内で生活しても年間 0.053mSv の被曝にしかならない、という。その根拠は IAEA（国際原子力機関）の報告書 IAEA-TECDOC-1376（2003 年 10 月）である。果たしてこの基準は妥当なのか。

森林は放射能の貯蔵庫

2011 年 3 月の福島第一原発事故により、福島県はじめ東北地方一円の森林が汚染された。年間 1mSv 以上になる森林の汚染面積は、森林総合研究所の推定によれば、福島県で 43 万 ha（福島県の森林の 44%）、福島県以外では 36 万 ha、合計 79 万 ha であり、100 万 Bq/m² 以上の森林の汚染樹木のバイオマスは、合計 2100 万トンに及ぶ。常緑樹の松や杉は、事故時に大量の放射能を葉に蓄積し、葉面吸収によって一部は心材に拡散した。4 年たった今は、落葉となって地表につもり、土壤汚染が始まっている。切尔ノブイリの経験によれば、事故から 7~8 年経てば、これらの落ち葉は腐葉土化して根からの吸収が始まり、急速に樹木の汚染が始まる。当初、国は森林の除染も考えたが、起伏の激しい日本の山林は作業が困難であり、作業者の被曝を考えると森林の除染は不可能と考えている。

汚染木材の利用

こうした状況下で、国は福島はじめ汚染地域の森林を利用して、地域の復興につなげる考え方である。その結果、基準値以下の樹木は建材として全国に出すことになる。食品と違って、汚染レベルの表示義務はない。国が定めた放射性セシウムによる建材の汚染基準は 2,200bq/Kg だという。仮に 6 曇間で角材 20 本（20Kg/本）を使えば、合計 88 万 Bq の部屋に住むことになる。「これでも、外部被曝は年間 0.053mSv にしかならないから大丈夫」と国はいう。果たしてそうなのか。この基準がまかり通れば、日本全体が放射能汚染環境にまみれることになる。この基準の根拠となった IAEA の

報告書を検証する。

IAEA-TECDOC-1376 の問題点

木材の汚染は Bq/Kg で表されるが、汚染家屋内での被曝線量は mSv で表示しなければならない。そのための換算係数 (DCC: 実効被曝線量変換係数) を導き出すのがこの報告書の目的である。そのためのモデル住宅は縦横 7m、高さ 3m の四角な部屋 (50m²) で、壁板の厚さは 20cm、天井板は 2.25cm、床板は 4.5cm である。この部屋の真ん中で一日 11 時間過ごす（年間 4,000 時間）。詳しいことは省略するが、こうした条件下で過ごせば、DCC は 7.5mGy (グレイ) ×10 (-9 乗) mGy/h/Bq・Kg になるという。この計算の根拠として IAEA が挙げているのは、スウェーデンのランド大学の Fick..R.R という学生の学位論文である。内容は測定器による測定技術と被曝線量の理論的な数式化で、特に木材に關した論文ではない。通常、学位論文は第 3 者の厳しい審査を受けた査読論文ではなく、こうしたものを国連の機関が根拠にするのは異様である。それに、この DCC は Cs137 についてしか述べておらず、福島では問題になる Cs134 については考えていない。同じ汚染レベルでも Cs134 の方が半減期は短いが、空間線量率に及ぼす効果は Cs137 より 2.7 倍も大きく、現在の日本では無視できない。内部被曝でもそうだが、様々な仮定を重ねて Bq をシーベルトに換算する、という考え方方に無理がある。あくまでも実測値を重ねて経験を重視すべきである。このままでは日本全体が被曝列島になる。

2015 年 4 月 2 日（河田）

チエル救事務所引っ越し顛末記一

「楽園」から「極楽」へ

「極楽」から「桃源郷」へ…

あの懐かしの「楽園アパート」事務所から、鶴舞公園を抜けて至る愛知労働文化センターの船底B1事務所に引っ越してきたのは、2010年6月のことだった。何しろ、それ以前のわが事務所は、南こうせつ「神田川」ばかりの学生向け下宿という相当ひなびた代物で、労働文化センターに引っ越してきた時には、そこがかつて水難にあったところだったという事などすっかり忘れ、「楽園」から「極楽」に昇格したような、いい気分になったものだった。しかし、忘れたことは、やがて否応もなく思い出させられるものだ。「水難」は忘れた頃にこの「極楽」にもやってきたのだった(排水ポンプの故障で「水浸し事件」発生)。その時、「この事務所にはボートと長靴を備えなければならない」と、マジ顔で考えたのは私だけではないだろう…。しかし、このビルも管理者が変わり、事務所も去る時がやってきてしまった。ボートを常備しないうちに…。

そして今、チエル救事務所は「桃源郷」(理事・市原さん曰く)の中にある!! 広々とした南向きの窓いっぱいに日の光はあふれ、まるでニースみたい(…のわけがない)!? 河田さんアレンジのレイアウトはなかなか快適で、これなら仕事もはかどるに違いない(…かな?)。何より、家賃が抑えられたのは嬉しいし、広いし、きれいなトイレが同じフロアにあるし、今までと同じ鶴舞近辺で、外貨送金も同じ所でできるし、勝手知ったるという風である。

そうそう、肝心な事を書き忘れるところだった。「必殺引っ越し仕事人」の事である。通常業務を引っ越し間際までこなさなければならない兼松さんや私(山盛)を尻目に、荷作り狂騒曲を奏でる約3名がいたのであった。そのパワフルなこと。手も力も口も全開!の作業。いつの間にか、引っ越し荷物は山積みの段ボール箱へと、収納されていったのである。恐るべし(^_^):

とにかくにも、引っ越しは完了し、新事務所で心機一転。今年度もガンバルのだっ! ポレーシュ読書の皆さん。お近くにお越しの際は、是非御立寄りください。(山盛)



☆☆☆ 新事務所住所 ☆☆☆

〒460-0012

名古屋市 中区 千代田5丁目11番33号
ST・PLAZA・TSURUMAI 5階B号室

TEL/FAX : 052-228-6813

E-Mail : chqchubu@muc.biglobe.ne.jp



ほっこりできるお料理でした (市原 佳代)

3月28日、名古屋東生涯学習センターで、「切尔ノブイリ／フクシマ講座第10回『油菜ちゃん』で作るやさい料理の会」を開催しました。講師は、南相馬市在住の杉内さんと奥村さんです。農家のお二人は、料理で使う野菜すべて、ご自分で生産されたものをお持ちください、心のこもったお料理となりました。メニューは、天ぷらや郷土料理の炒め煮など「油菜ちゃん」づくし！ボリュームもたっぷり！でも、さっぱりしていて油っこくない!!と参加者に大好評でした。



南相馬での農業は、原発事故後の風評被害で大きなダメージを受け、本当にたいへんだったとのことです。小松菜を生産されている奥村さんは、それでも今では北海道などの販路を開拓され、収穫の喜びをかみしめていらっしゃいました。

参加者からは、「以前は災害が起きるとボランティアに駆けつけたけど、高齢になりできなくなってしまった。でもお料理だったらできるので、今日は参加しました」という感想をいただきました。

野菜をふんだんに使った南相馬の郷土料理をいただきながら、日本のどの地域においても、この豊かな食文化を二度と危険にさらしてはいけない、と強く思いました。

「フクシマ講座に参加して」

(福島県南相馬市 杉内 和子)



初めての名古屋訪問！！汗が流れる程の暖かさに、桜の花も咲き始め、私たちを心から迎えてくれた様な思いがいたしました。4年前の東日本大震災、東京電力の福島原発事故発生と、思いもよらない大きな出来事が重なり、恐怖と不安な気持ちで途方に暮れているとき、いち早く名古屋の切尔ノブイリ救援・中部の皆様から、心温まるご支援をいただき、とても心強く感謝いたしております。この度の名古屋での料理交流会につきましては、大勢の方々がご参加してください、ありがとうございました。

南相馬産の野菜を使った料理でしたが、快く受け入れてください、皆さんとても手際よく楽しく料理する事ができました。

2011年3月11日以前の私達は、米を作る、野菜を作る、生産中心の毎日でしたが、自分の作った野菜を、消費者の皆さんと一緒に調理することは農家の想いが伝わり、消費者の皆さんのが感想をお聞きすることができ、これから米や野菜つくりの強い励みになること思います。

先日、料理の一品として取り組んだ「べんけい煮」について調べてみました。福島県南相馬市原町区北薙浜（きたかいばま）地区に伝わる郷土料理です。北薙浜の人々の多くは江戸時代末期、主に北陸地方から入植してきた移民であることに由来します。浄土真宗の檀家が惣報恩講や永代経法要などで、代々作られてきたといわれております。今、薙浜地区は津波により居住が不可能となり、地区住民は散り散りとなってしまいましたが、郷土料理としての「べんけい煮」を守り、後世に伝えることに熱心な「川崎 悠さん」の研究資料から教えていただきました。最後になりましたが、貴重な時間をいただき誠にありがとうございました。

いま ふる里への思い (南相馬市 奥村 早苗)

このたびは、チェリノブイリ救援・中部さまのお世話になり、久しぶりに楽しさを満喫することができました。「油菜ちゃん」が結んでくれた縁を感じながら、参加いただいた皆さんに改めて感謝いたします。

そのような中、名古屋の地でお話をさせていただき、震災直後の状況を改めて思いだしてしまいました。震災から4年が経過しましたけれど、南相馬市をはじめ福島原発周辺地域では、避難を強いられている子どもを持つ若いお母さんなど多くの方々にとって、いまだに原発事故の不安を払拭できない状況が続いています。

大地震による20mを超える大津波で、海岸沿いの全ての家屋が流出しました。何とか津波からのがれ、近くの学校や体育館へ多くの方が避難しました。携帯電話もつながらないなか、親兄弟が生きている望みを持ちながら、避難所を巡り歩いてきた家族の必死な姿が、思い出されてしま

います。しかし、当時の悲惨な状況から5年目を迎えるいま、現実は間違なく前に進んできています。犠牲になった方の悔しい思いのためにも、生かされた私達が子ども達に未来をつないでいくことが大切だと思います。

「油菜ちゃん」が、南相馬のふる里を子ども達に紡ぐ花の妖精のように感じます。私も、野菜や花などの命を感じ、このふる里で何かお役に立てればと思います。皆さんとの縁を大切に頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



〈左から、杉内さん・奥村さん・小林さん・戸村さん〉

「日本は狂っている」飯館村の3代目牧場主が語る

原発事故から4年 福島の今 (橋本 京子)

飯館村の細川徳栄さんは、馬を牧場で繁殖させ、全国に販売したり、馬を訓練して神田明神のお祭りや「相馬野馬追」のイベントに貸し出したり、さらには地元の養護学校や各地の小学校や盲人施設に、セラピー馬として馬を提供してきました。原発事故後、全頭殺処分をしての避難の指示が出たのですが、「伝染病でもないので、殺せ！なんて考えられない」と、彼は飯館村に一人残り、馬の世話をすることにしたそうです。ところが、2012年頃から、馬が次々に死んでいくようになりました。お話の前に、昨年8月に死んだ愛馬「さゆり」の、起立歩行不可能から死ぬまでの未編集動画が上映されました。倒れた馬を重機を使って何度も何度も起き上がらせようとする場面が延々と続いて、もうそこまでやらなくてもと思いましたが、倒れたままにしておくと餌が食べられなくて死んでしまうと知りました。事実、「さゆり」は起き上がって、餌を食べ仔馬におっぱいをやりました。そして死にました。脚筋肉の痙攣、歩行異常・歩行不可能、接触不能、死亡。

これまでに28頭の馬が死んでしまったそうです。検査、解剖をした保健所や大学は、「原因不明」と言うばかり。彼は自らを馬喰と言っています。馬とともに生きること、これが彼の人生なのです。「日本は狂っている」。現在、東電を相手取り、損害賠償の訴訟を起こし、裁判中です。



事務局便り

新事務所に移り、新年度もスタート。やや慌ただしい4月を迎えていた。ウクライナへの代表団派遣は4月22日～5月1日、また、南相馬での放射線量測定実施は、第18次が4月17日～20日、第19次が24日～27日で、それに伴うやりとりが続いている。移転に伴う手続きやらお知らせ、また、各種助成をいただいていることに伴う報告書作成作業など、やらなければならることはたくさんある。そうそう、第18次の南相馬市の放射線量測定隊員がまだ定員に達していない。この測定、そしてそれに基づくマップ作りの意味は大きく、南相馬に住む方々にとって、汚染の現状を知るための大切な情報手段となっている。名古屋からは10人乗りレンタカーで出発する。あと3名は乗車可能。ボレーシェ読者の皆様、どうぞご参加ください。事務局へご連絡くだされば詳細をご説明いたします。

(山盛)

油菜ちゃん 上前津駅「みちのく屋」さんで販売開始!!

先日、運営委員のMさんが、上前津駅構内の「みちのく屋」さんに、油菜ちゃんの販売をお願いしてきました！ しかも、メーテレの取材陣を従えて（笑）。

※みちのく屋さんは、復興支援のために
東北の物産を扱っているお店です。

【株式会社 みちのく屋】

<http://michinokuya.com/>
名古屋市中区大須4丁目 11-15
地下鉄上前津駅 B1F (052-252-0202)



なんと、なんと！ 早速、取り扱っていただけることになりました～。これで、名古屋でも1本から購入することが簡単になります！ 南相馬の「油菜ちゃん」が気になっている方はぜひ足を運んで、購入してください。

「みちのく屋」で新鮮な魚介類を購入して、ぜひ、天ぷらを試してみてくださいね。（美）

編集後記

☆引っ越しは「引っ越しのサカイ」さんが、破格のお値段で引き受けってくれました。きっと福島支援のつもり…というか、かなり強力な価格交渉が…。ありがとうサカイさん。（佳）

☆事務所の転居先が見つかり引っ越し日が決まった。書類の山々を50個以上のダンボール箱に詰める作業がテキパキと進む。家の片づけもこれくらい手際よくできると良いのに…な。（美）

☆「ISIS（イスラム国）」は、「イスラエル」と「サウジアラビア」そして「米国の金融マフィア・軍産複合体（ネオコン）」が作り上げたものである。そこに自分達の「傭兵」と「武器」を送り込み、狂暴化させている。彼らは、この「ISIS」と戦うふりをして、市民を巻き込み、戦火を拡大してきた。これは明らかに「マッチ／ポンプ」であり、この真実を知り首謀者を逮捕しない限り、中東に平和は訪れない（彼らを排除すれば、たちまち平和が訪れる）。今、私たちの目の前で起きている「国際金融システム」の激変（「世銀・IMF・米連銀」から「アジアインフラ投資銀行」への移行）は、世界平和を実現する歴史的ターニングポイントである。（J）

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷 「エープリント」
TEL・FAX (052) 871-9473